



東洋大学大学院 総合情報学研究科は、2016年4月に修士課程を開設し、2018年4月より博士後期課程を開設します。さらに、修士／博士後期課程の専門分野として改組／新設されるのが、心理・スポーツ情報分野です。

■心理・スポーツ情報分野における学びの特色

心理 を学ぶ

臨床心理学、カウンセリング心理学、精神医学などの科目により、心理臨床に必須の知識と技能を身につけることができます。また、実験心理学、認知心理学、社会心理学、応用心理学(産業・組織心理学、色彩心理学、行動分析)といった、心理学の諸部門を幅広く学ぶことも可能です。研究・調査に必要な統計解析・データマイニングについても一から学ぶことのできる、実践的なカリキュラムが用意されています。

* 修士課程における学び

1. 臨床心理学・精神医学

昨今では、メンタルヘルス不調や精神疾患を抱える人が増加傾向にあり、「心の健康管理」は社会全体で取り組むべき課題の一つです。こうした人々に対し、心理学・医学的観点から支援を行っていく、心理臨床の専門家に寄せられる期待も大きくなっています。

心理・スポーツ情報分野では、臨床心理学・精神医学といった心理臨床に関わる講義・実習科目を設置し、専門的知識と技能の教授を行います。心理士資格の取得を目指す方にとっても、充実した学びの機会が得られる環境といえるでしょう。

2. カウンセリング心理学

心理臨床の場面はもちろん、日常生活の様々なコミュニケーション場面においても、カウンセリングの考え方を応用することができます。例えば、カウンセリングの基礎となる「傾聴」のスキルを身につけることは、クライアントに癒しをもたらすだけでなく、自身の他者理解の向上や対人関係の円滑化にもつながります。臨床、福祉、教育など、諸領域でのコミュニケーションに活用できる実践的なスキルとして、カウンセリングの技法を学んでみては如何でしょうか。



IT カウンセリング・メンタル
トレーニングルームの設置

(2017年4月～)

2017年度から、心理・スポーツ情報分野の研究拠点として、キャンパス内に「IT カウンセリング・メンタルトレーニングルーム」が開設されました。こちらでは、遠隔地へのオンラインカウンセリングや、メンタルトレーニングに関わるデータの分析・管理システムの運用など、ICT技術をメンタルサポートに活用する取り組みがなされています。

3. 実験心理学



心理状態を理解するための様々な実験的手法についても、実習授業を通じて学ぶことが可能です。心身に関わるデータ測定・分析のプロセスを体験できるのが、心理・スポーツ分野の特徴といえます。

観察や面接、質問紙、描画を用いた心理検査は、パーソナリティから深層心理に至るまで、幅広く個人の心理的特性を明らかにするものです。また、心拍変動や発汗、脳波といった生体情報の計測は、緊張やストレスといった心理的反応をとらえるもので、嘘発見器などにも応用されている技術です。適切な実験計画に基づき、様々な測定法・機器を活用したデータ収集を行うことで、新たな発見がもたらされるかもしれません。

4. 応用心理学



臨床場面のほかにも、心理学の応用領域は様々です。個々の領域に特化した心理学理論や研究手法にふれ、新たな応用可能性についても模索していきます。

【産業・組織心理学】

個人や集団の関係における心理のメカニズムに注目し、組織における課題解決や生産性向上へとつなげるための、心理的なアプローチについて検討します。

【色彩心理学】

癒しをもたらすカラーセラピー、作業能率を向上させる空間のカラーデザインなど、色彩が我々の心理面にもたらす効果と、そのメカニズムを探求します。

【行動分析】

不適切な習慣をなくし、新たに望ましい行動を獲得していくために、心理学における行動分析や強化、フィードバックの手法を活用します。

【異文化比較心理学】

異なる文化・価値観に基づくパーソナリティや、コミュニケーションの様式を理解することにより、グローバル化社会において国内外の人々と協調・協働するための視点を養います。



5. 統計解析・データマイニング



心理学実験・調査により得られたデータから有用な知見を見出すためには、統計解析・データマイニングのスキルを身に付けておく必要があります。心理・スポーツ情報分野では、心理・生体データの収集、処理、伝達(クライアントへのフィードバックなど)のプロセスの中で、適切な統計解析・データマイニングを実施する方法を学び、実践的なICT活用の能力を獲得できます。

* 博士後期課程における学び

博士後期課程では、心理学諸領域のより高度な専門知識を獲得するとともに、学内外での実習などを通じて、実践経験を積み重ねていきます。修士課程・後期課程には共通の専門分野が設置され、一貫した教育・指導環境が整備されているため、大学院での学びを通じて、個々の専門領域を確立することができるでしょう。

また、修士課程での学びを基盤として、心理系資格の取得に挑戦することも推奨されます。カウンセラー・心理士といった資格の取得や、修了後の心理職への就職を見据えて、サポート体制を充実させていく予定です。